

NISSHA 株式会社

「2025 年 12 月期第 1 四半期 WEB 決算説明会」

質疑応答の要旨

(2025 年 5 月 9 日開催)

Q1. デバイス事業のタブレット向けの売上高が想定より上振れた要因は、アメリカ関税政策の影響による需要の前倒しか。

A1. 需要前倒しかどうかは不明。2024 年 Q4 はハイエンド向けの割合が低かったが、2025 年 Q1 は高くなり、ミックスが改善した。

Q2. デバイス事業の Q2 の見通しは。

A2. 売上高は Q1 比で継続する見込み。Q1 は稼働益も含まれており、営業利益は Q1 と同水準とはならない見通し。

Q3. メディカルテクノロジー事業の営業利益が 2025 年 Q4 比で改善した理由は。

A3. Q4 は一過性費用が発生し利益が落ち込んでいた。Q1 は一過性費用の減少により改善したが、まだ十分な利益水準ではない。

Q4. メディカルテクノロジー事業の医療機器 CDMO の需要環境について、Q1 と今後の見通しについて教えてほしい。

A4. 顧客製品の販売鈍化や在庫増の影響はあるが、バランスよく受注を獲得することでマイナスを帳消しにしている。パイプラインもあり、現地通貨ベースでは今後も成長を見込んでいる。

Q5. アメリカ向け売上高の約 80% が現地生産とのことだが、残り 20% はどのようなものか。また、アメリカの関税政策の影響額は。

A5. 主に産業資材事業の日本からの輸出分が該当。アメリカ現地生産の原材料輸入分も含め、

関税の影響額は年数億円程度と見込む。価格転嫁で対応するが、すべてが転嫁できるわけではない。

Q6. アメリカ現地生産による競争優位性はあるか。

A6. まだ実現していないが、競合の他国生産のものが関税の影響を受けることで、当社のアメリカ生産の受注に流れる可能性はある。